



横浜市立城郷小学校
明治33年6月創立

学校だより

めざす子ども像

令和5年8月28日

9月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆

真夏の体験

校長 さんべい あつし 三瓶 淳

8月上旬からお盆にかけて、2つの大きな台風の影響で旅行の中止や変更、中には実家が甚大な被害を被ったご家庭も少なくないかと思えます。どんなに文明が発達しても自然災害の猛威には、人は無力と感ずります。重ねて今年の猛暑は記録的です。長期予報では9月も残暑が厳しいと言われています。熱中症対策をとりながら、10月の運動会に向けて準備を進めていきます。

ところで、9月1日は防災の日。関東大震災が発生した日です。学校でも総合防災訓練を実施する予定ですが、訓練の意義を改めて胸に刻むために東日本大震災による大津波で多くの児童（74名）と職員（10名）が犠牲となった震災遺構大川小学校（H30、廃校）へ行ってきました。訪問するのは3回目です。訪ねる度に周囲は整備され、大きな駐車場や大川震災伝承館という施設も建っています。しかし、遺構として残された校舎を見ると、体育館が基礎の部分しか残っていないことや校舎の2階と体育館をつなぐ渡り廊下の太い支柱が根元から折れ曲がっていること、2階教室の床が水圧で盛り上がっていることなどから大津波の破壊力の凄さが伝わってきます。

今回、自分ごととして捉えたのは「子どもたちの命を預かっている」という点です。当時、地震発生から大川小学校へ津波が到達するまでに約50分ありました。過去の震災で津波が学校まで来なかったことや二次避難が学校のマニュアルになかったことなどから、校庭には避難したものの移動を開始したのは、津波が到達する1分前でした。教職員は、火災や自然災害、不審者に対して最悪を想定しながら最良の判断をし、子どもたちの命を守ることを最優先に判断を下さなければなりません。今後の避難訓練が、訓練で終わらないように危機感をもって行っていきます。

さて、38日間の夏休みが終わりました。課題にしてある「毎日こつこつ続けよう！自分チャレンジ」の報告が楽しみです。自分で決めた目標に向かって、子どもたちがどんな工夫や努力をしながら取り組んでいたのか、また達成した喜びやできなかった時の悔しさ、そして夏休みが終わっても続けていこうとする成長の跡が見えてきます。さらに、夏休みにしかできないことに取り組んだ人もいたはず。実は、この夏休みに「令和版 東海道中膝栗毛」を計画し、実行した本校職員がいました。東海道中膝栗毛には、2人で江戸を出発し、東海道を歩きながら伊勢神宮を経て、京都、大阪へと巡る13日間の道中が記録されています。職員は1人で、足元はワラジならぬクロックス。7月23日に横浜を出発し、1日48kmペースで14日間かけて新大阪駅に到着したそうです。この猛暑の中での偉業達成です。職員がこの体験を通して一番印象に残ったのは、「人との関わり（一期一会）」と言っていました。その他にもたくさんの気付き（財産）を得たと思いますが、私たち教職員も彼からエネルギーをもらい、休み明けの子どもたちに向き合っていこうと思います。

<お知らせ>

高学年を担当していた瀬戸 歩教諭が、R5年8月28日からR6年3月31日まで育児休暇を取得します。代替教諭は、決まり次第改めてお知らせいたします。